

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	尚美学園大学
設置者名	学校法人尚美学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通科目	学部等 共通科目	専門科目	合計		
芸術情報学部	情報表現学科	夜・通信	4	8	30	42	13	
	音楽表現学科	夜・通信			14	26	13	
	音楽応用学科	夜・通信			17	29	13	
	舞台表現学科	夜・通信			16	28	13	
総合政策学部	総合政策学科	夜・通信		0	18	22	13	
スポーツマネジメント学部	スポーツマネジメント学科	夜・通信		0	10	14	13	
(備考) 総合政策学部ライフマネジメント学科 令和2年4月学生募集停止 スポーツマネジメント学部スポーツマネジメント学科 令和2年4月学部の設置								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

- 学生ポータルシステム (<https://portal.shobi-u.ac.jp/portal/>) に「実務経験のある教員等による授業科目」一覧表を掲載し、学生へ周知している。
- SHOBI UNIVERSITY WEB SERVICE シラバス検索 (https://portal.shobi-u.ac.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx) にてWeb シラバスを検索・閲覧することができる。「実務経験のある教員等による授業科目」はシラバスの「実務家教員_実務経験の内容欄」に明確に記載している。
- いずれも尚美学園大学ホームページ (<https://www.shobi-u.ac.jp/>) からアクセスすることができる。

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	尚美学園大学
設置者名	学校法人尚美学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校法人尚美学園 Web ページ内で役員名簿を公表している。
<https://www.shobigakuen.ac.jp/info.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	会社役員	2024年4月1日～ 2028年3月31日	学校運営担当
非常勤	大学教授	2024年4月1日～ 2028年3月31日	学校運営担当
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	尚美学園大学
設置者名	学校法人尚美学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) カリキュラムにより開講するすべての授業について、担当する授業担当教員に12月に作成を依頼する。授業計画書(シラバス)の内容は、大学設置基準及び中央教育審議会答申の用語集に記された内容(授業の方法及び内容、授業の回数と計画、到達目標、授業評価の方法や基準、準備学習や復習等の授業外での学習、教科書と参考文献、履修方法、実務経験のある教員の記載等)を網羅し、授業計画書(シラバス)作成の手引き並びに「教員ハンドブック」の要領に従って作成する。授業担当教員は授業全体をデザインし、明確な目標や内容を記して学生に提示する。学生は履修決定の参考、授業目標及び授業評価の確認や基準を理解すること、授業の準備や復習等に使用する。また、学生が授業評価を行う際の基準としても活用される。 3月中旬にホームページ上に公表する。	
授業計画書の公表方法	尚美学園大学 Web ページ(https://www.shobi-u.ac.jp/)にリンクを作成し、「SHOBI UNIVERSITY WEB SERVICE(https://portal.shobi-u.ac.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx)」から授業計画書(シラバス)を検索できるようにしている。
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 本学では、学修の評価方法並びに学期末考査の実施について学則に定め、これに拠った授業計画書(シラバス)の成績評価の方法と基準により、厳格かつ適正な評価を行い、学期末総合点を算出(0~100点)している。総合点の100~60点を合格として単位を付与し、59点以下を不合格としている。また、原則出席回数が2/3に満たない場合、試験を欠席した場合及びレポート試験の未提出があった場合には点数評価をしない規定を設けている。成績評価の基準は100~90点(秀)、89~80点(優)、79~70点(良)、69~60点(可)、59点以下(不可)と到達度の段階を示している。合格となった場合のみカリキュラム及び授業計画書(シラバス)に示された単位を授与することとしている。また、授業毎の成績評価の分布状況を学生にフィードバックすることや授業アンケートを実施することで評価の適正性の維持を図っている。 学生に随時成績情報を開示し、カリキュラム内容と学修状況を理解させうえて、今期の授業計画書(シラバス)とともに、学修計画をたてるよう指導を行っている。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) ●本学におけるGPAの内容(指標の算出方法) 各学期末に行われる成績評価(総合点)によって行う。 100～60点は合格、59点以下は不合格。カッコ内はグレードポイント(GP) 秀(4)100～90点、優(3)89～80点、良(2)79～70点、可(1)69～60点、不可(0)59点以下、失格・欠席(0) GPAの計算式：$GPA = (GP \times \text{単位数}) \text{の総和} \div \text{履修単位数の総和}$ (GPAは、小数点第三位の値を四捨五入し、小数点第二位までとする) ●本学におけるGPAの適切な実施状況 本学では春学期(前期)及び秋学期(後期)の期末試験実施終了後、それぞれ確定した成績をもとにGPA計算式により算出し、成績表に過去のGPAの数値の推移とともに記載し、学生にフィードバックしている。そのGPAの状況により、指導担当者(アドバイザー)より履修指導を実施している。また、GPAが基準を上回った場合には、履修上限単位数を22単位から26単位にする対応も行っている。 授業の成績分布状況は、学期毎に成績評価の比率(指標の比率)を公表している。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	尚美学園大学 Web ページ内の「学生ハンドブック (https://www.shobi-u.ac.jp/handbook/)」で公表している。 また、尚美学園大学 Web ページ内の「情報公開—大学基本情報 (https://www.shobi-u.ac.jp/about/disclosure/)」で公表している。
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 本学の建学の精神に基づき、各学部及び各学科の人材養成及び教育研究上の目的を達成するため、3つのポリシー(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)を定め、本学 Web ページに公表している。各学部を設定したディプロマ・ポリシーは以下のとおり。 ●芸術情報学部 芸術を通して社会に貢献し得る専門性をもった人材を養成 様々な芸術表現と、メディアを駆使した表現を追求し、社会的に通用する幅広い分野にわたっての専門的能力を備えた人材を養成します。 ●総合政策学部 多様性の時代を生きる感性を養い、問題解決能力と実践力に富んだ人材を育てる 現代社会における様々な政策課題を様々な分野にわたって研究し、問題発見—問題解決型の思考様式にもとづいて政策立案し、実行できる人材を養成します。 ●スポーツマネジメント学部 スポーツを多角的視点から理解し、課題解決能力と実践力に富んだ人材を育てる 現代社会における多様なスポーツ課題を探索し、そのことから浮かび上がってくる課題を解決し、社会で実践することのできる人材を養成します。 本学では上記ディプロマ・ポリシーに基づくカリキュラムにおいて、必要な資質・能力が身に付けられる授業を配置している。年次進行で取得する科目を定めるとともに、求める資質・能力が明確になるよう、重要科目は必修とし、科目区分毎に選択必修を定めている。また、半期(前期・後期)毎に単位取得状況を学生にフィードバックし、学生が資質・能力の修得状況を確認できるようにしている。 卒業(学位授与)は、本学学部に4年以上在学し、科目区分の条件を満たした上で、卒業要件124単位以上を修得した者について、教授会の議を経て、学長が認定している。	

卒業の認定に関する 方針の公表方法	尚美学園大学 Web ページ内の「学生ハンドブック (https://www.shobi-u.ac.jp/handbook/)」で公表している。 また、尚美学園大学 Web ページ内の「3 つのポリシー (https://www.shobi-u.ac.jp/about/policy/educational/)」で公表している。
----------------------	--

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	尚美学園大学
設置者名	学校法人尚美学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	学校法人尚美学園 Web ページ内の事業報告書・財務状況等で公表している。 https://www.shobigakuen.ac.jp/info.html
収支計算書又は損益計算書	同上
財産目録	同上
事業報告書	同上
監事による監査報告(書)	同上

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:	対象年度:
公表方法:	
中長期計画(名称:	対象年度:
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名	芸術情報学部／総合政策学部／スポーツマネジメント学部
教育研究上の目的（公表方法：尚美学園大学 Web ページ内の「情報公開－大学基本情報（ https://www.shobi-u.ac.jp/about/disclosure/ ）」で公表している。）	（概要） ●芸術情報学部 様々な芸術表現とメディアを駆使した表現を追求するため、社会的に通用する情報表現及び音楽表現における幅広い分野にわたっての専門的能力を持った人材を養成することを目的とする。 ・情報表現学科 社会の高度情報化において、従来の芸術教育に情報・メディアコミュニケーションを統合した先見的な教育研究を行うことを目的とする。 ・音楽表現学科 器楽、声楽、ジャズ&ポップス、音楽創作の各分野における専門性の追求と同時に多角的な視座を養う教育研究を行うことを目的とする。 ・音楽応用学科 音楽ビジネスの世界における音楽制作と音楽産業の各分野の専門性の追求と同時に多角的な視座を養う教育研究を行うことを目的とする。 ・舞台表現学科 舞台における表現を実践的かつ理論的に追求し、舞台芸術の伝統を踏まえ、あらゆる視座から将来への可能性を広げる教育研究を行うことを目的とする。 ●総合政策学部 現代社会におけるさまざまな政策課題を、政治、経済、法律、情報、文化などの諸分野にわたって研究し、問題発見－問題解決型の思考様式に基づいて政策立案できる人材を養成することを目的とする。 ・総合政策学科 社会科学の専門的知識を学び、国、地方自治体、企業、団体などの抱える政策課題を研究し、そのうえで問題解決を図ることができるような人材を養成することを目的とする。 ●スポーツマネジメント学部 ・スポーツマネジメント学科 多角的な視点からスポーツに対する理解を深め、現代社会における多様な課題を探究、解決できる人材を養成すること、また、マネジメントの視点から、スポーツにおける多様な価値を実践的、論理的に追求する教育研究を行うことを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.shobi-u.ac.jp/about/policy/educational/ ）	（概要） ●芸術情報学部 芸術を通して社会に貢献し得る専門性をもった人材を養成 様々な芸術表現と、メディアを駆使した表現を追求し、社会的に通用する幅広い分野にわたっての専門的能力を備えた人材を養成します。 ●総合政策学部 多様性の時代を生きる感性を養い、問題解決能力と実践力に富んだ人材を育てる 現代社会における様々な政策課題を様々な分野にわたって研究し、問題発見－問題解決型の思考様式にもとづいて政策立案し、実行できる人材を養成します。 ●スポーツマネジメント学部 スポーツを多角的視点から理解し、課題解決能力と実践力に富んだ人材を育てる 現代社会における多様なスポーツ課題を探究し、そのことから浮かび上がってくる課題を

解決し、社会で実践することのできる人材を養成します。 教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.shobi-u.ac.jp/about/policy/educational/） （概要） ●芸術情報学部 新たな時代に対応した専門教育により可能性豊かな人間性を獲得する 「芸術と科学の融合」をコンセプトとした専門教育の実現。学科間の垣根を外し、お互いの学びを知り、共同制作するコラボレーション科目は、芸術と科学の融合をカリキュラム化した、本学ならではの特色です。 ●総合政策学部 社会、文化、人間にたいする理解を深め、現代社会での実践を目指す 多角的な視点から、様々な課題・問題を学科やコース特性を活かしながら分析・探究することにより、社会・文化・人間に対する理解を深め、現代社会のなかでそれを実践していくことができるカリキュラムを展開します。 ●スポーツマネジメント学部 スポーツにたいする理解を深め、現代社会での実践を目指す マネジメントの視点から、スポーツにおける多様な価値を実践的、論理的に追求する教育研究を行い、多角的な視点からスポーツにたいする理解を深め、現代社会における多様な課題を探究、解決できる人材を育成することを目指しています。そのために本教育課程では、マネジメントの土台となる基礎的な知識の修得のため、経済・社会・法学などの基礎科目を設置。そして「する・みる・ささえる」スポーツを分析・探究することにより、現代社会の中でそれを実践していく幅広い学びが可能なカリキュラムを展開します。 入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.shobi-u.ac.jp/about/policy/educational/） （概要） ●芸術情報学部 ・芸術と科学、双方にたいする興味、理解、学習意欲があり、社会が求める新しい表現技術を自分なりに創造・開発したいというチャレンジ精神がある方 ・視野を広げた総合能力を身につけ、現代社会を的確に見据えた課題提案・探究・解決のための能力を高めたいという意欲に満ちている方 ・単なる知識や技術の修得に留まらず、リベラルアーツ（基礎教養）を根底にした学びを通し、感性を高め、人間性をも向上させていきたいと考えている方 ●総合政策学部 ・建学の精神「智と愛」のもとに、明確な目的意識をもって関心を抱いている分野を探究していこうと考えている方 ・大学での学修を通して、問題発見－問題解決型の思考様式を身につけようとする意欲をもっている方 ・文化活動を通して、心豊かな社会の形成に寄与する人間になろうと考えている方 ●スポーツマネジメント学部 ・建学の精神「智と愛」のもとに、明確な意識をもってスポーツを探究していこうと考えている方 ・大学での学修を通して、様々なスポーツ課題を発見し、それを解決、また、表現する意欲をもっている方 ・スポーツ活動を通して、地域社会をはじめとした社会の形成を目指す人間になろうとする方
--

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：尚美学園大学 Web ページ内の「情報公開－大学基本情報(<https://www.shobi-u.ac.jp/about/disclosure/>)」で公表している。

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	1 人	－					1 人
芸術情報学部	－	31 人	17 人	3 人	人	人	51 人
総合政策学部	－	13 人	6 人	人	人	人	19 人
スポーツマネジメント学部	－	7 人	5 人	2 人	人	人	14 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		235 人					235 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://www.shobi-u.ac.jp/about/disclosure/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
芸術情報学部	400 人	480 人	120.0%	1,700 人	1,822 人	107.2%	50 人	29 人
総合政策学部	100 人	72 人	72.0%	400 人	322 人	80.5%	—人	4 人
スポーツマネジメント学部	160 人	256 人	160.0%	640 人	812 人	126.9%	—人	1 人
合計	660 人	808 人	122.4%	2,740 人	2,956 人	107.9%	50 人	34 人
(備考) 総合政策学科及びスポーツマネジメント学科への編入学は、収容定員に対する欠員の状況を勘案して行うものとする。								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
芸術情報学部	405 人 (100%)	7 人 (1.7%)	336 人 (83.0%)	62 人 (15.3%)
総合政策学部	115 人 (100%)	5 人 (4.3%)	89 人 (77.4%)	21 人 (18.3%)
スポーツマネジメント学部	183 人 (100%)	0 人 (0.0%)	172 人 (94.0%)	11 人 (6.0%)
合計	703 人 (100%)	12 人 (1.7%)	597 人 (84.9%)	94 人 (13.4%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画は、シラバスとして毎年3月に Web ページ上で公表している。 担当教員は計画など授業全体をデザインし、明確な目標や内容をシラバスに記して学生に提示している。学生はこれにより、履修決定の際の参考とするとともに、毎回の授業目標の確認、準備学習や復習、授業評価の基準を理解すること等に利用している。 シラバスの内容は、大学設置基準及び中央教育審議会答申の用語集に記された内容（授業の方法及び内容、授業の回数と計画、到達目標、授業評価の方法や基準、準備学習や復習等の授業外での学習、教科書と参考文献、履修方法、実務経験のある教員の記載等）に準拠するよう作成の手引き並びに「教員HANDBOOK」の要領に沿って作成している。
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準は学則で定め、本学 Web ページ内の「HANDBOOK for Students」及び「大学基本情報」に掲載している。

授業計画書（シラバス）の成績評価の方法と基準により、厳格かつ適正な評価を行い、学期末総合点を算出（0～100 点）している。総合点の 100～60 点を合格として単位を付与し、59 点以下を不合格としている。また、原則出席回数が 2/3 に満たない場合、期末筆記試験を欠席した場合及びレポート試験の未提出があった場合には点数評価をしない規定を設けている。成績評価の基準は 100～90 点（秀）、89～80 点（優）、79～70 点（良）、69～60 点（可）、59 点以下（不可）と到達度の段階を示している。

卒業（学位授与）は、本学学部にて 4 年以上在学し、科目区分の条件を満たした上で、卒業要件 124 単位以上を修得したものについて、教授会の議を経て、学長が認定している。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
芸術情報学部	情報表現学科	124 単位	有・無	単位
	音楽表現学科	124 単位	有・無	単位
	音楽応用学科	124 単位	有・無	単位
	舞台表現学科	124 単位	有・無	単位
総合政策学部	総合政策学科	124 単位	有・無	単位
スポーツマネジメント学部	スポーツマネジメント学科	124 単位	有・無	単位
G P Aの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		

学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)	公表方法：
----------------------------	-------

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.shobi-u.ac.jp/about/campus/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
芸術情報学部	情報表現学科	1,000,000 円	250,000 円	460,000 円	教育充実費(年額)400,000 円 休学在籍料(学期ごと)30,000 円
	音楽表現学科	1,250,000 円	250,000 円	460,000 円	教育充実費(年額)400,000 円 休学在籍料(学期ごと)30,000 円
	音楽応用学科	1,250,000 円	250,000 円	460,000 円	教育充実費(年額)400,000 円 休学在籍料(学期ごと)30,000 円
	舞台表現学科	1,250,000 円	250,000 円	460,000 円	教育充実費(年額)400,000 円 休学在籍料(学期ごと)30,000 円
総合政策学部	総合政策学科	750,000 円	200,000 円	310,000 円	教育充実費(年額)250,000 円 休学在籍料(学期ごと)30,000 円
スポーツマネジメント学部	スポーツマネジメント学科	800,000 円	200,000 円	340,000 円	教育充実費(年額)280,000 円 休学在籍料(学期ごと)30,000 円

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) ●アドバイザー制度 学生一人ひとりに専任教員がつき、履修状況や個性、将来の夢などを把握したうえで、学生生活や学業の進み具合、進路などをマンツーマンでアドバイスします。GPA で示された客観的な成績と夢の実現に向けた履修プランを立て、その学生の能力を最大限に活かせる有意義な学生生活を送れるようにサポートします。 ●オフィスアワー 本学の全教員が週に1コマ90分、その教員の研究分野や専門のこと、教員の知識や技能のことについて、学生と自由に交流ができる時間を設けています。学生はオフィスアワーを活用することで興味のある分野について、直接エキスパートな教員の話聞き、知識を広げることができます。 ●学生総合アシスト室 学生生活支援制度に基づき、学業上の困難などについて、担当のスタッフが相談に乗ります。また、自立した学生生活を送れるように、障害を含めた多様な特性、特徴のある学生に合わせた合理的な支援を目指し、学生課、カウンセリングルーム、保健室などの関連組織の教職員が協力して援助を行います。 ●海外語学研修 長期休暇を利用し、語学教育プログラムを実施しています。様々な国の学生とコミュニケーションを取ることができ、語学だけでなく体験学習を通じて文化に触れることができるなど充実した内容となっています。海外研修は、正式科目として卒業単位が4単位認定されます。 ●国際交流室 外国人留学生のために、日本での生活、日本語の学習支援、出入国在留管理庁への対応など、留学生が充実した学生生活を送れるよう様々な支援を行っています。また、日本人学生

も含めた全学生対象に言語教育支援や海外との学術交流等の実施業務などを行っています。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

●キャリア・就職課（キャリアセンター）による支援

学生の進路・就職支援の拠点として、音楽や情報、行政やスポーツなどの志望業界別に学生個別の進路に添った活動へのアドバイスを行っている。3年生進級時には、個別面談を実施し、現時点での進路希望を調査した上で、以降のアドバイス（履歴書添削や模擬面接など）を行う。また、留学生には、国際交流室と連携しサポートを行っており、大企業から中小企業まで積極的に企業訪問を行い、求人開拓にも重点を置いている。主な支援内容は以下のとおり。

・キャリアタス UC 尚美による情報提供

大学宛に届いた求人情報、インターンシップ情報の他、就活マニュアル動画などが閲覧できる。

・キャリア・カウンセリング／個別相談対応

キャリアコンサルタントの国家資格を持つスタッフが常駐し、個々に合った進路選択や就職活動のための個別相談を実施している。

・キャリアサポート関連講座の実施／就職対策講座の企画運営

就職活動をする上で不可欠な「エントリーシート」「履歴書」の書き方をはじめ、ビジネスマナーや面接対策など、就職活動で身に着けておきたい知識や能力についてのセミナーや講座を開催する。

・業界・職種セミナーおよび企業説明会の企画運営

業界・企業の現状をより良く理解するために、各業界で活躍している方を招いての講演会を行う「業界・職種セミナー」や人事採用担当者の方から各企業の採用説明を行う「企業説明会」を開催する。なお、毎年2月には、3年生を対象とした「就活キックオフイベント」と銘打った20社を超える企業を招いての学内合同企業セミナーを開催している。

・進路・就職情報検索コーナーの開設

企業からの求人情報および就職関連サイトからのさまざまな情報を公開すると共に、公務員情報や進路・就職関連図書の閲覧、貸出しを行う。

・インターンシップ支援

キャリア形成、就職に係る教員組織と連携し、受入れ企業の開拓から参加学生とのマッチング、事前研修など、大学独自のインターンシップの運営を行っている。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

●カウンセリングルーム

主に学生の心の健康をサポートするため、有資格のカウンセラーが常駐し、日常的に相談や支援を行うカウンセリングルームを設置しています。授業のこと、友人関係、学生自身の問題、学業に関する悩み等、幅広く対応しています。

●保健室

学内でのケガ、急な体調不良などの応急処置をするのはもちろんのこと、健康チェック、健康相談にも応じています。身体のコンディションを良好に保つ方法を知りたいときや、健康についての不安を感じたときにも利用することができます。保健に関する有資格者（看護師）が担当します。

●校医（産業医）

医師による健康相談を受けることができます。来校日程は保健室前および事務局前の掲示にて案内を行っています。校医と面談を希望する場合は一週間前までに保健室に申し出ただき、相談内容（症状など）について確認を行います。

●学生総合アシスト室

大学生活を送るうえで、どこに聞いたら良いか分からないこと、不安なことや困ったことなど、幅広い内容について気軽に質問、相談できる総合窓口です。内容を確認し適切な窓口を紹介します。

●トレーニングルーム

健康維持や体力向上のため、トレーニングルームを設けています。担当者が学生ごとのプログラムを組み、機器の操作をサポートするなど、トレーニングジムと同様の機能を有しています。使用にあたり、危険防止のため講習を受け、担当者の指導の下で使用する仕組みとしています。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：尚美学園大学 Web ページ内の「情報公開－大学基本情報 (<https://www.shobi-u.ac.jp/about/disclosure/>)」で公表している。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F111310102030
学校名 (〇〇大学 等)	尚美学園大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人尚美学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		302人（ ）人	291人（ ）人	323人（ ）人
内 訳	第Ⅰ区分	173人	158人	
	(うち多子世帯)	()人	()人	
	第Ⅱ区分	75人	62人	
	(うち多子世帯)	()人	()人	
	第Ⅲ区分	51人	64人	
	(うち多子世帯)	()人	()人	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	－	－	
	区分外（多子世帯）	人	人	
家計急変による 支援対象者（年間）				－
合計（年間）				324人（ ）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	13人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	24人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	11人	人	人
計	26人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
年間	0人	前半期	後半期
		人	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	—
3月以上の停学	0人
年間計	—
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)&及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	—	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)&及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当)	36人	人	人
GPA等が下位4分の1	36人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	15人	人	人
計	36人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。